

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 1

八江萩名所園画

三



ル 4
303
3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
TAMMA JAPAN

呂門
303
卷 9

八江款名所圖画參之卷

目錄夏之部下

和泉寺 尚齋先生墳墓

疫神社

松雲院

柳江晚鐘

陣之原

松雲院圖

大谷觀音橋之圖

國守

南明寺

全花見之畵

同觀音堂之畵

太甲庵

景真寺

柳瀬 六本松

上津江晴嵐

同古圖

同新圖

龍藏寺

同畵

中津江夜雨

同古圖

同新畵

與牧權現社

通心寺

上野荒神社

圓福院

東光寺

同圖

鉢多院

泰法院

明光寺 人丸社 同番 唐人山 陶器司

大釜埵 御嶽權現社

以上參拾六條

三

八江款名所圖画參之卷

木梨恒充 著述

夏之部下

山縣篤藏 補正

和泉寺 大谷にて疫神社のうしろ山の片へは有り一向

宗清光寺の庵室にて本尊阿彌と如来あり當所ハむろ

和泉式部俊任より一舊跡にて和泉寺村といつと里老

のいひ傳ふる所あり 當所を和泉式部の古跡といへると証をえし

烏田氏説ハ内藤和泉といふ人住居一誤

馬鬣封 尚齋小倉先生の墓あり碣文左よるす

長甫小倉先生墓碣 先生諱貞字實操小倉氏号尚齋小字万太郎長州都岐人泰嚴侯侍医宗

爾之季子也其先出于江之源氏左近將監實澄名高于世曾孫元實始來
藝仕洞春侯至先生乃六世也先生生二載患麻疹遺毒發腫為跛蹇幼類
敏長好學適京受業伊藤坦菴其知友伊藤仁齋北可昌他皆大父行在京
三年歸省父母青雲侯召見講經賦詩明年從侯東觀抵京交遊益博凡淹
京十四年而還明年又東遊林整字之門擢助講正德辛卯韓人來聘先生
授簡迎接學士東郭有日東諸士總能文大手騷壇獨許君之語聲藉甚都
下 文廟採詩覽之拊髀大歎因欲聘先生辭以癡疾而止享保已亥藩新
建孔廟廣厲學官之路召先生於東都司業明年春擢班同前隊長是日役
人藩儒臣雖祿大也未嘗有列此班者儒林榮焉先生率生徒有方以德語
之彬、咸興學延及都下邦內嚮化云在職十九年元文丁巳十一月二日
卒于官先生廉介公方好直徑行雖或乏醞藉之風而視人之阨如已有之
傾資救焉其文學乃天性也小長呻嗶老而不衰宜乎儒宗藩廷而有功斯
丈也歲五十而無子養阪氏為嗣名實廉字彦平後舉一子名某先生延寶
丁巳某月某日享年六十一葬長城南和泉寺山和謚曰長甫先生

疫神社

大谷よあり社司田村氏贊祠す

祭神詳るるす天正年間の勸請と見えし棟札左に記す

上棟疫神宮一申右者為天長地久御願田滿殊信心護持壇
那金剛未資甲力息災延命相受快樂常寺繁昌佛法興隆諸
人護持當鄉當村家門安全悉地成就故如斯大工勝久敬白
天正十九年辛卯三月十六日 別當扶盛

南陽山松雲院 同所繩手の中程北側にあり濟家の禪林に

して京都南禪寺に屬す

本尊ハ觀世音菩薩よりて開山ハ前真如元仲和尚諱ハ見
甫といへり相傳ハ當寺ハ慶長年間 天樹公の御草創な
り元安藝國廣島にありて平安寺といふ其後防州山口柴
碕善福寺の境内に移す又香積寺へ引まゝ乾島和尚住職
の時天樹院へ移させらまて則 松雲院殿の御菩提所とせ

らまごり夫より又堀内今養學院舊地とよみ所地を賜ふ就中焼失

して濁り淵に迂る今長藏寺の地そ此のち遂に當所を轉せりと

いふ本堂は掲る所丈室の二大字ハ黄檗木菴の筆あり古釣

鐘一基銘不明天平十年二月日青金壁入三百斤とあり此のハ唐物なりとて上へ納まりしる也

柳江晚鐘 同所より濁り淵邊までをいふいふへ萩八

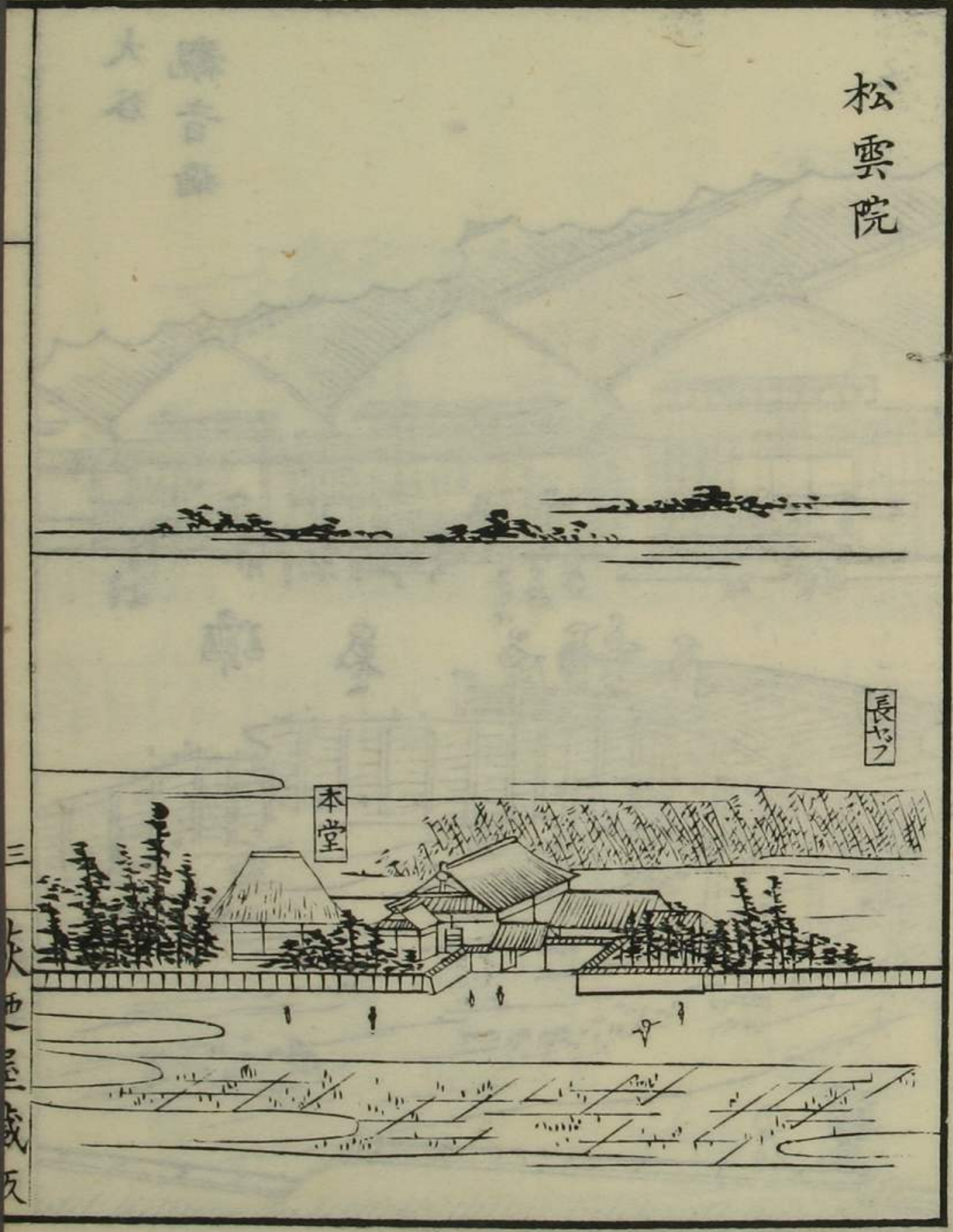
観の一ちりといひ傳ふ

陣ヶ原 今の沖原の地をいへりまご吉部原ともいふ古

昔松倉伊賀守岩成豊後守と合戦せし古戦場なりといふ

まご當所いふへ石見國よりの往來の本街道を埴田

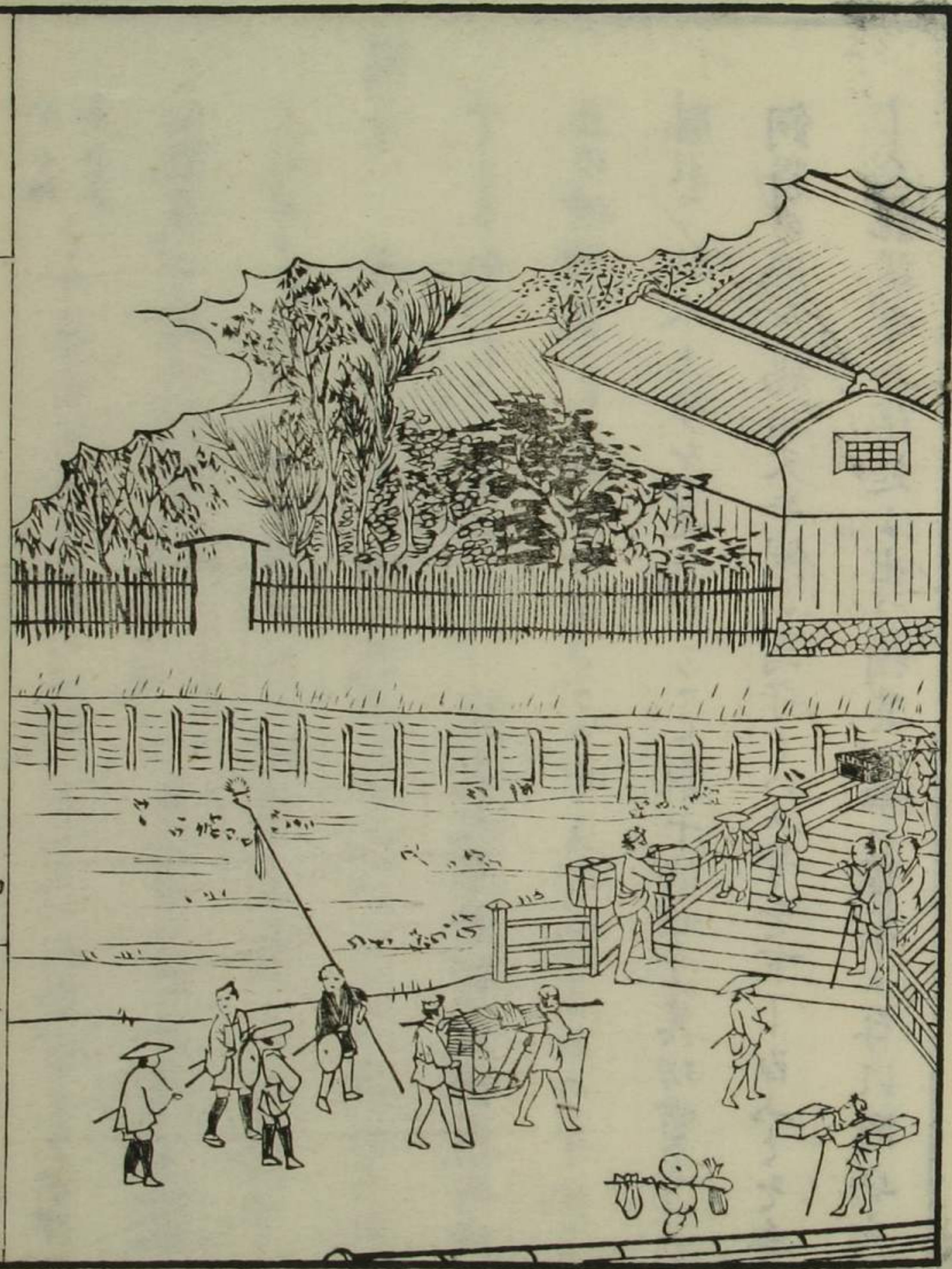
松雲院



大石

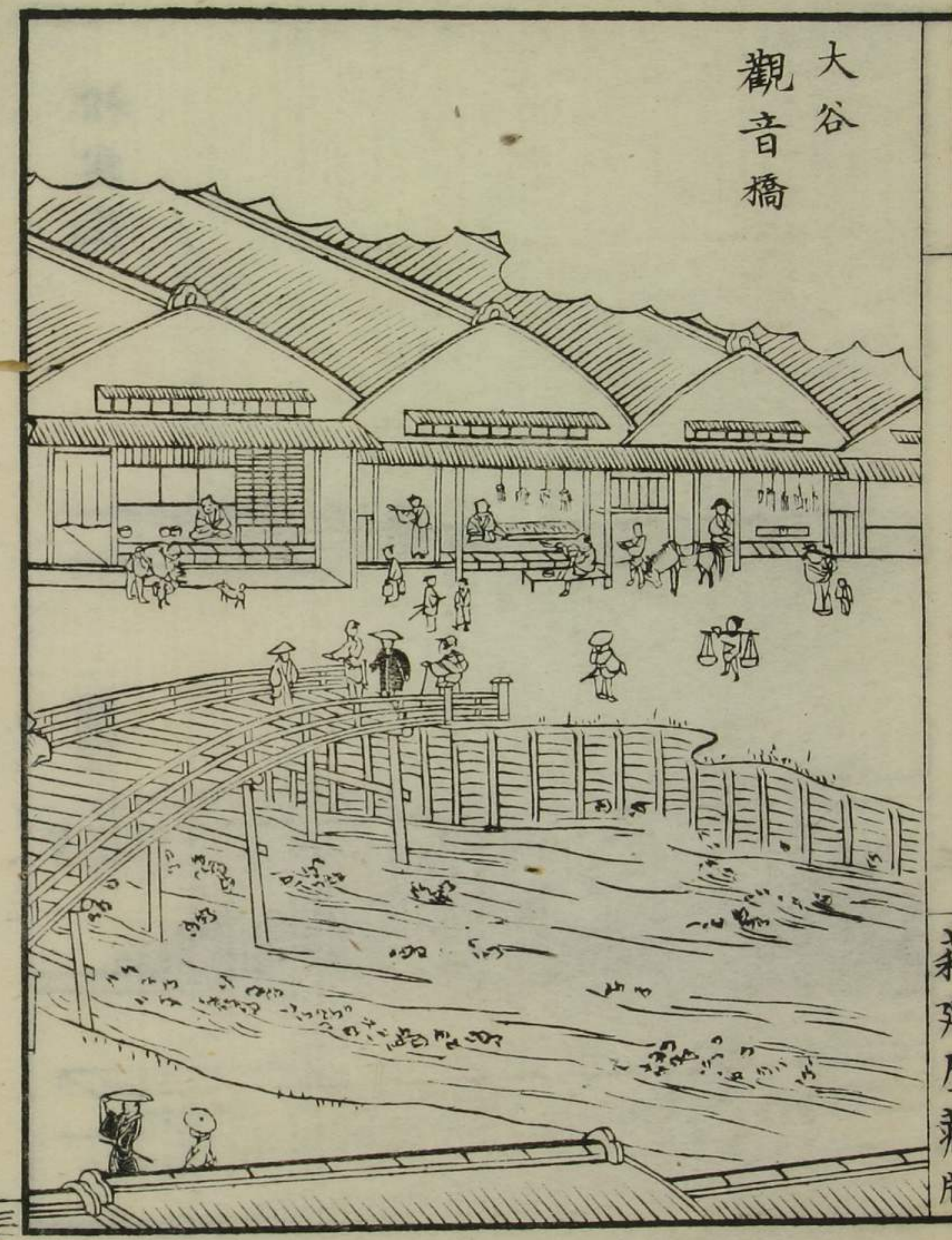
長七

大石



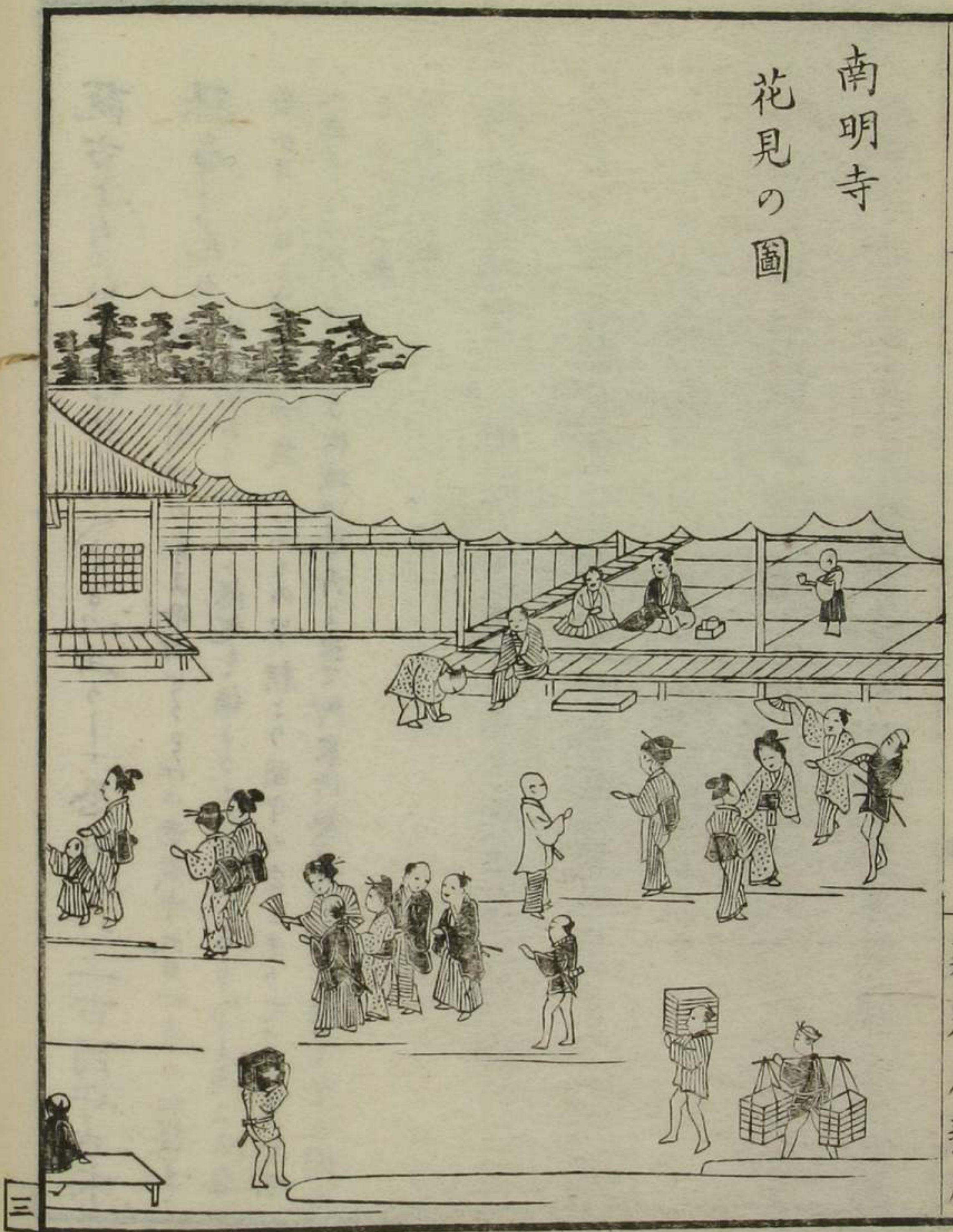
北
大
西
屋
藏
版

大谷
觀音橋

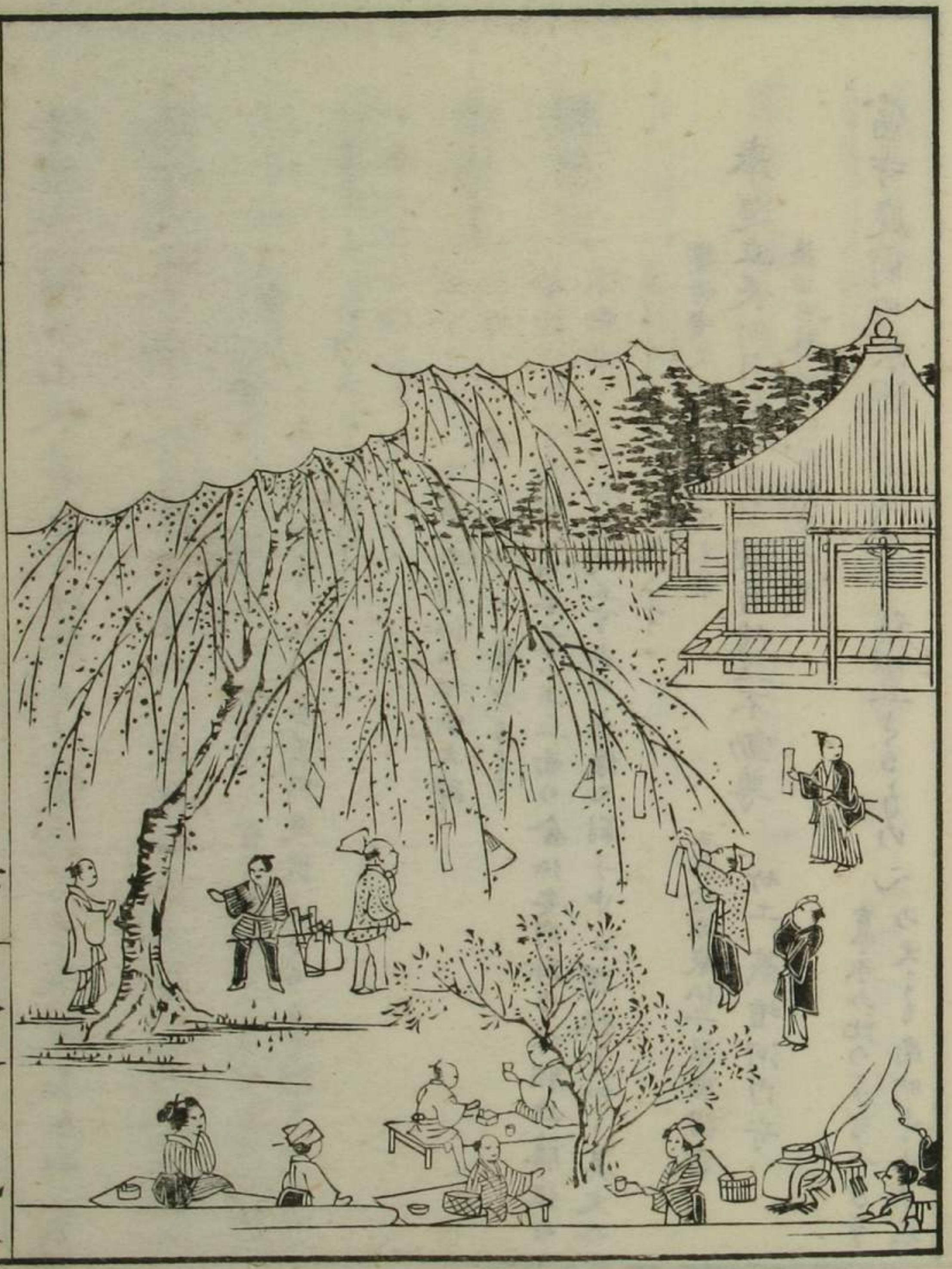


三
編
野
藏
版

南明寺
花見の圖



南明寺
花見の圖



六
花見の圖

新編 皇朝 職官 考

婆塞修験の山伏等交々住職せし道場あり後慶長年中宗

風を改めて氷上山に属す後又 天樹公御再建ありて當所へ

遷さすあり 當寺ハ七観音の第二番あり堂宇ハ禁より五丁より上

あり此堂宇ハ竹田番匠の造修したるをむりより

連綿すといひ傳ふす飛彈

の甚五郎の作るりとつり

藥師堂 坂中ニあり本尊華師仏ハ弘法大師

の作して寛永四年の建立あり

護摩堂 今禁の観音堂を以本尊ハ十一面の金仏安阿弥の作胎立藤祖の

不動明王ハ御長二尺五寸余の立像ニ肘子中ニ牌板をかく其文の

ありまを左にあり

奉造立長州日輪山本堂観音侍立不動尊 三密金剛乘仏子景堅謹書

益田玄蕃頭藤原朝臣元堯

當寺庭前の糸櫻ハ古より栽置するもの 寛永の比のまぢふを

の文も南明寺の糸櫻

を云ことあれハそこ

よりなりと明りあり

まゝ法印玄海住職の時観音の靈夢を

蒙りて植すハ春時爛熳として尤壯觀あり歳々ハ初午

ハ市中貴賤袖を連らねて群参引もきくは或ハ三月の

花盛ハ老々も若きも糸櫻ハ由縁をわめ筆墨を携

へて詩歌を吟する何れハ酒肴をいきて舞唱あり其

興を催すいりてハみな同ハ茶店食舗の類ハ

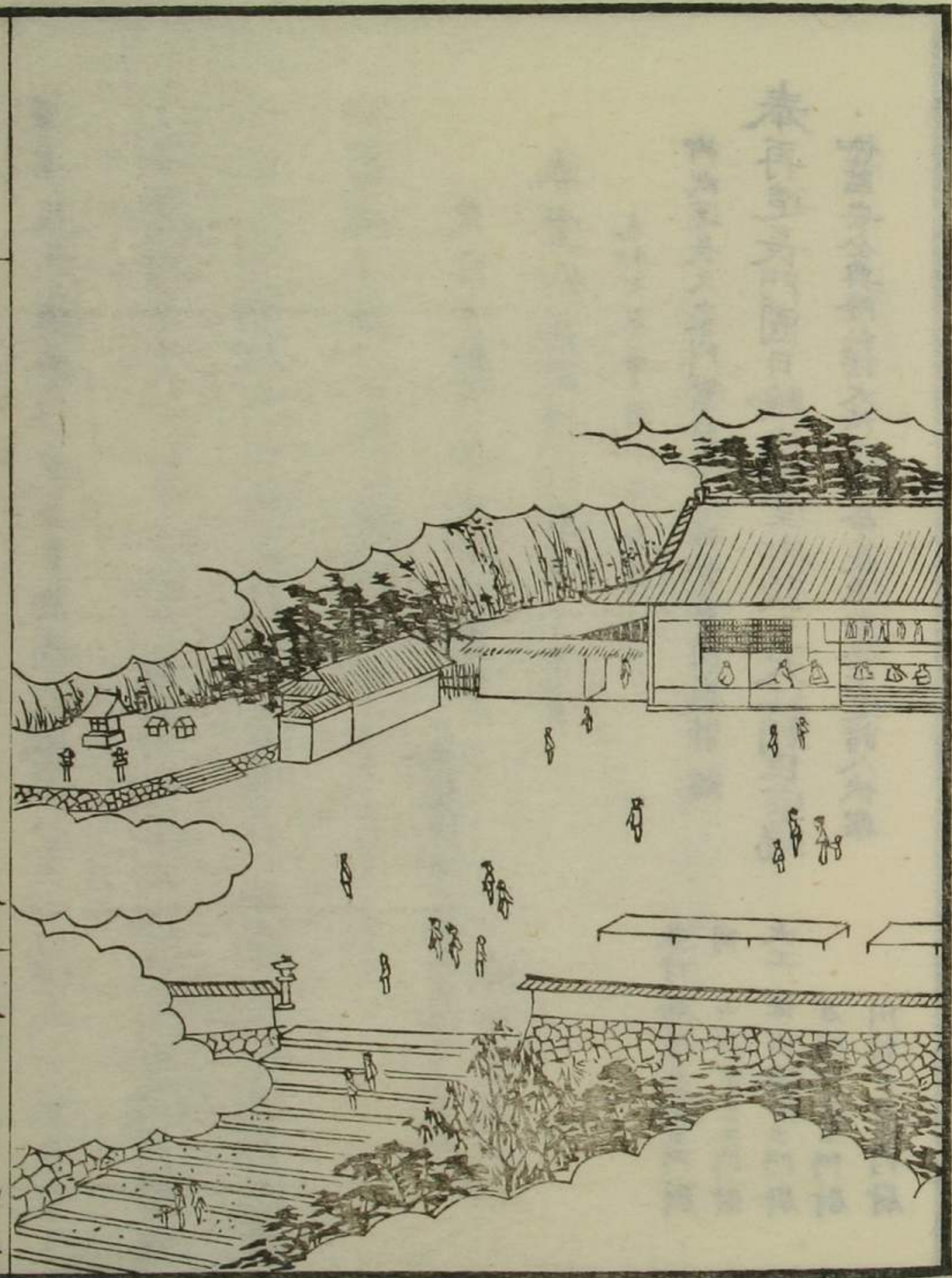
を嗽として所狭く寔ハ春遊佳境の一にして勝景筆に

日輪山弥生曼陀羅序

こゝに近きものれと稱の古より繁茂して

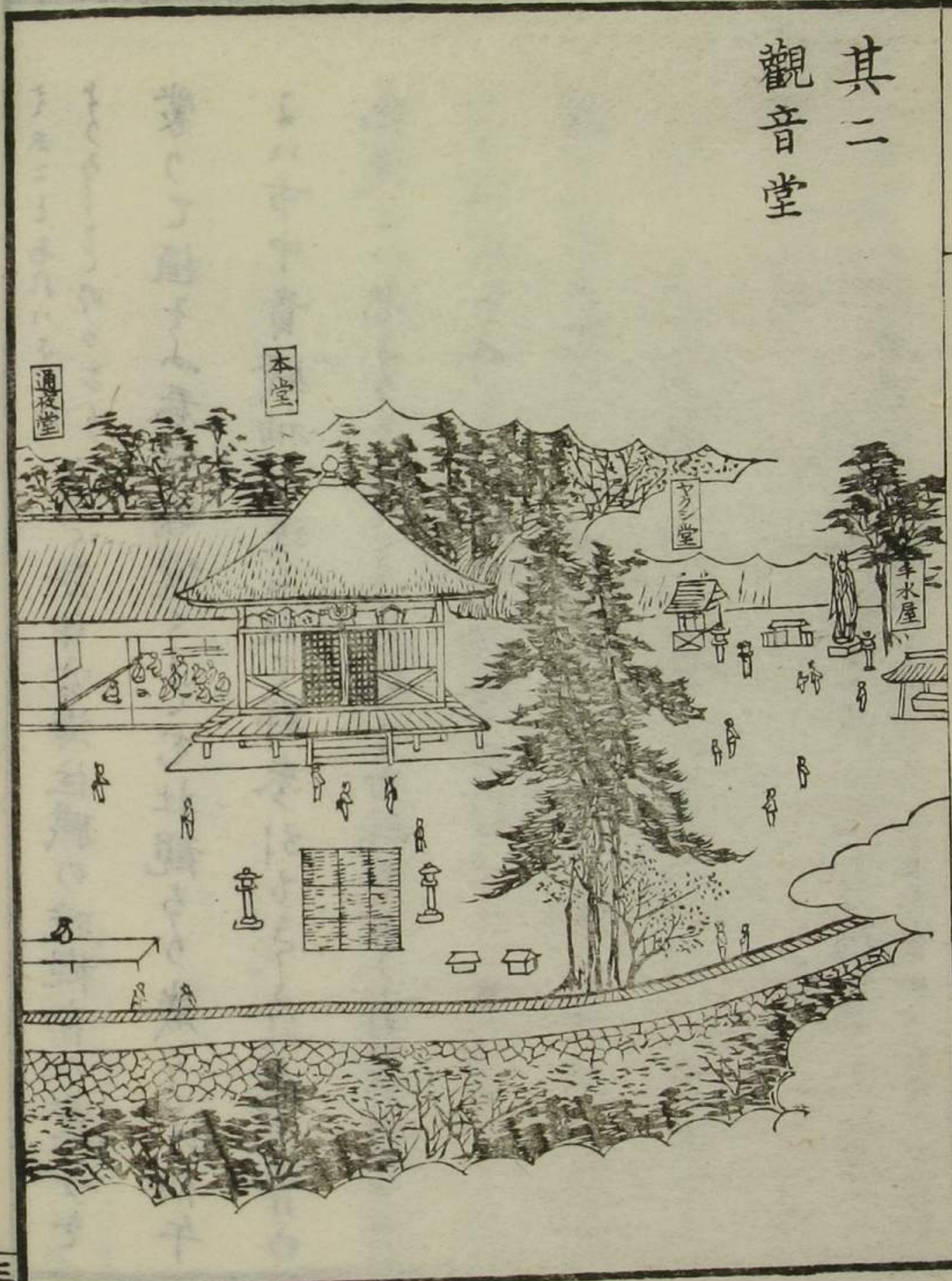
めてこれありさむを書出されハこゝの

七 秋 野 蔵 版



八
火
西
屋
藏
反

其二
觀音堂



新
延
厚
藏
片
片

新屋藏片
新屋藏片

前畧且夫蘭若の庭なる垂絲の櫻ハむろ一誰人の植置たる
よも其初めささるるねと貞享元祿の比も無双の繁茂
してその長さ十丈餘よおひのい園々に枝垂て九一反面を覆
ひ柔撓は裾を曳て庭上を掃ふところ云々

文化十癸酉季中和如意日 長藩萩府日輪山南明寺現住
法印玄海 □

本堂御再建棟札左よりす

元和七年辛酉十月吉祥日

御武運長久家門繁榮御子孫繁昌國家静謐

奉再造長門國日輪山本堂御願主大江朝臣宗瑞

伽藍安全典隆弘法大法主惠命長遠勤修道諸人快樂

奉行新屋五郎左門尉
同 山田半左門尉
大工 佐伯源左門尉
万代六左門尉
川村七左門尉

三

古制札左よりす

昔年任持職事光祐法中
相續通少使能勤行英
寺役あり候事急務了後遂
て之御看也何一行如件

元和四年正月十日 委託五

宗瑞

冰上山高住源康法印

九
新屋藏片

新編 皇朝 通志

禁制 南明寺山

右竹木採用事 徑前山
固ら加制し 山内竹木採地
仁木自他 儀基より 竹木
山内竹木採地 儀基より 竹木
可有 徑前山 儀基より 竹木
妙品 採地 可制 札 如 件

明應元年十月十日 兩



南明寺立山制札事

右任 治代より 判り 旨重 加制
山果 但 四至 若 東西 十 南 山 先
神 在 湯 願 内 儀 基 他 領 如 件
旨 至 材 木 并 新 米 採 地 可 採
用 仁 志 山 若 交 各 可 有 注
旨 仁 志 山 若 交 各 可 有 注
敗 志 山 若 交 各 可 有 注

永正二年二月一日 經繁 兩

十 新編 皇朝 通志

龍洲祝孝表

山 齋 目

山中觀世音
尊像の上
掲る扁額

古所寺古中徑

五

龍洲齋

胡年任持職し事任
先任所屬之方とて裁
評し畢し若し家之ち
領金を裁判勅行等
其怠慢之彼遂其子に
若也の一行如件
寛永拾四年三月二日

龍洲齋
齋
齋
齋
齋

十一
齋
齋
齋
齋

三和延慶曆片

太甲菴 今川島天王社の前の流れと世俗のいひ傳ふる

所之太鼓灣帶虹灣と書り是ハ文人騷客の用ゆる文字之
もと六本松山邊のうゝに太甲菴と云菴室あり一ふよれ不
名あり今ハ住捨一人も居るにいなりも朽れと餘波のこ残
りて太甲菴とかけら扁額今猶天王社ニ存せりこれ證と
まゝに是なり

聖安山景真寺 霧口ニあり妙心寺派の禪宗にて大照

院ニ属し開山ハ前住妙心賜紫沙門竺印和尚中興無着と
いふ本尊ハ釋迦如来の木像脇士ハ達摩大元の二大師之

三

當寺ハ昔川上村ニありて溪心寺といひ一寺院を當所ニ
引て宝永年間の再建なり

太子堂

本堂の右ニあり本堂聖徳太子を安す此堂は三世玄奘首坐本山妙心
寺就華院ニ行一時彼寺より玄奘ニありて浪速天三寺ニ詣て
主僧の免許を得て當寺へ持来り
安置せし所なりといひ傳へり

上津江晴嵐 八江菰八勝の一にて風光最奇觀なり

上津江上歛秋霖 度嶺嵐光浮乍沈

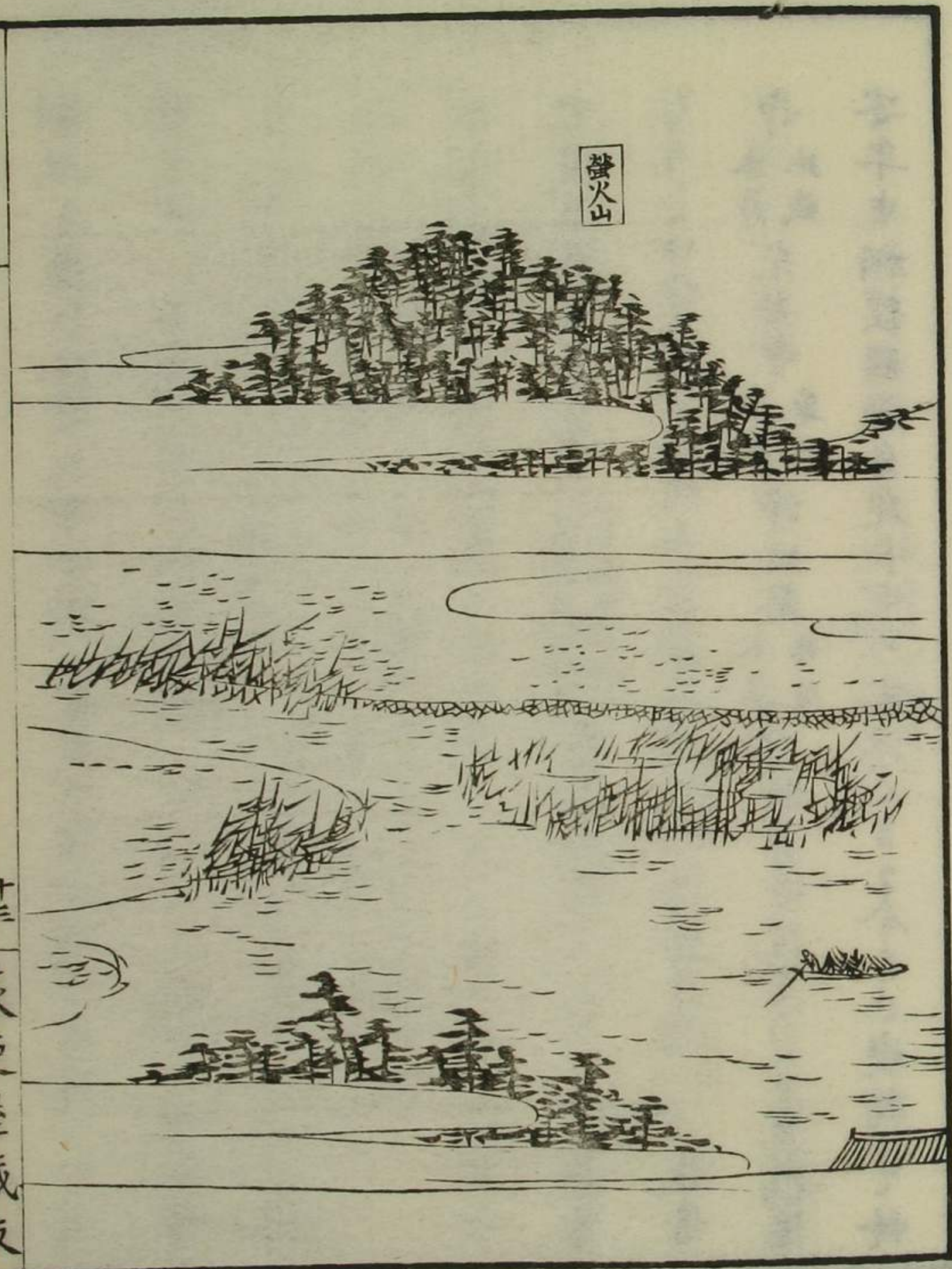
旋與扁舟傍灘落 日登丈五翠猶深 原欽

山川のせいの影をたふさぐよりの浪をそそり流るる 春貞

白牛山龍藏寺 中津江村ニあり臨濟派の禅林にて天

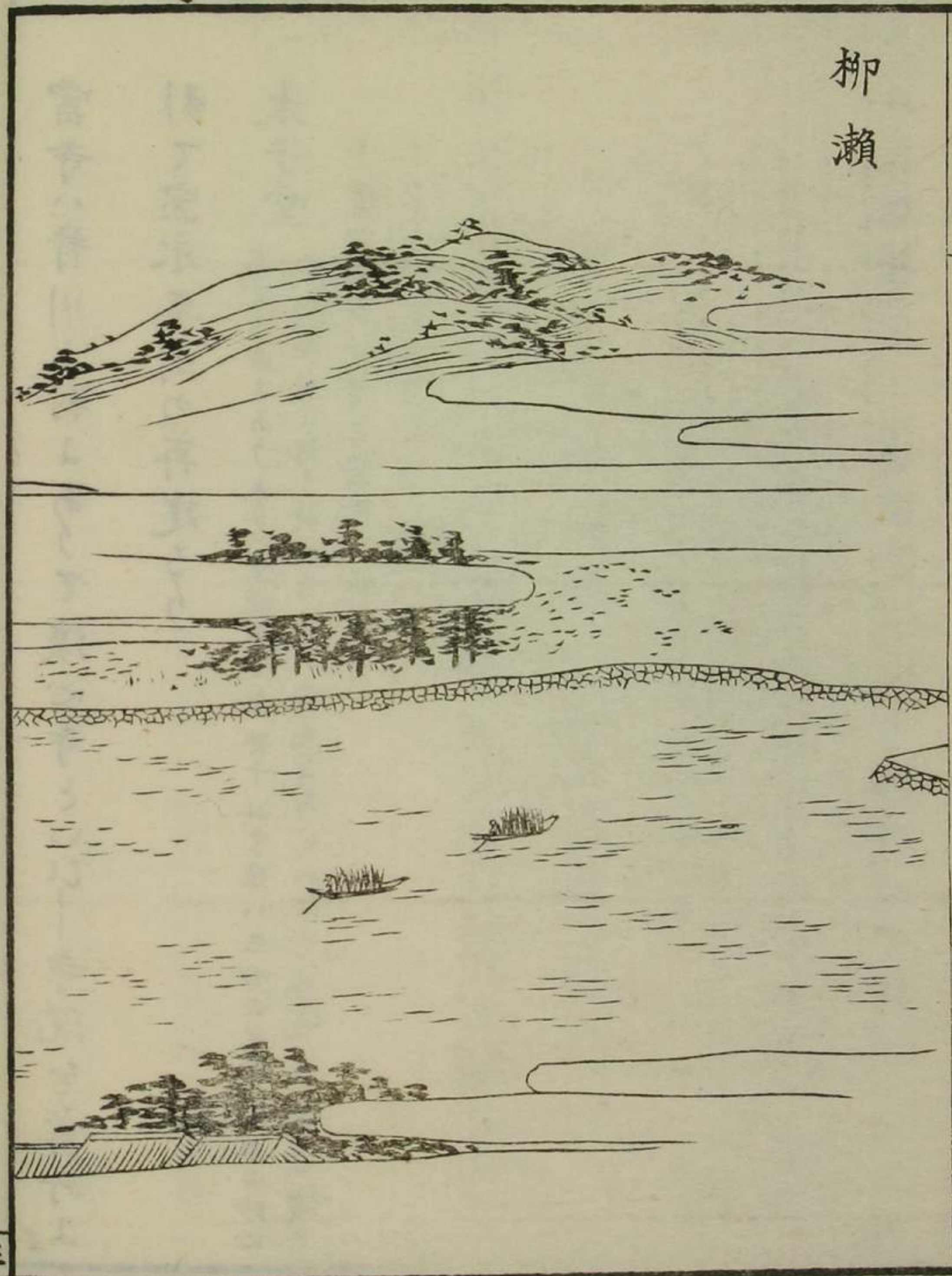
十二 上大延慶曆片

螢火山



十三
火
野
羅
藏
坂

柳
瀬



山
野
屋
浦
岸

三

新編 皇極經世一

樹院に属は往昔天平年間 聖武天皇勅額の舊蹟あり大

同年中 平城天皇の御宇草創の伽藍して萩随一の古梵

刹の開山の行基并 阿房國菅原寺にて遷 化す天平二年春二月二日 中興ハ石屏勅佛宗真悟

禪師と号は 開山傳は曰諱ハ子介字ハ石屏山無準下灵山道隱師の 法嗣して入唐す元徳元年辛酉二月十四日遷化す云々

本尊聖観音ハ開山行基の作る所にして一國一躰の靈像ニ

客殿本尊大日如来 三尺坐像にして 仏工運慶の作也 舊南都宗といひ一時の本尊

なりといふ其比の五院といふ多寶院 本尊釈迦如来 浄樂寺 本尊阿彌陀 藏音

寺 本尊地藏 光安寺 本尊華師 浄地菴 本尊阿彌陀 等の寺院を以り其後應

安年中相模國鎌倉建長寺の末派とあり今まも變轉して終

り天樹院を觸頭とす 當寺ハ七觀音の一 として第三番目なり

寺傳は曰古昔人皇四十六代 聖武天皇の御宇天平年間

南都大佛殿御創建の時諸國に詔して牛車を進らせり

夫の中より長門國阿武郡堀田の庄 今の萩ちり萩の條下に見ゆ 川島の郷よ

り率出する白牛ハ他國の牛に勝りていふ計るる大木大石

といふとも更なる勞るること多し運送するごと日毎に曉より初

めて黄昏より遂に牛飼の者も綱を放りて都の貴

賤言啼さるるちりたり折節 陛下に聞えたるハ 屢感斜

るは是則大日如来の靈驗なるべしとて即て褒賞して

上津江晴嵐古圖

山河れ勢りの

あまふり

ふり〜〜

江のちり

ふり〜〜

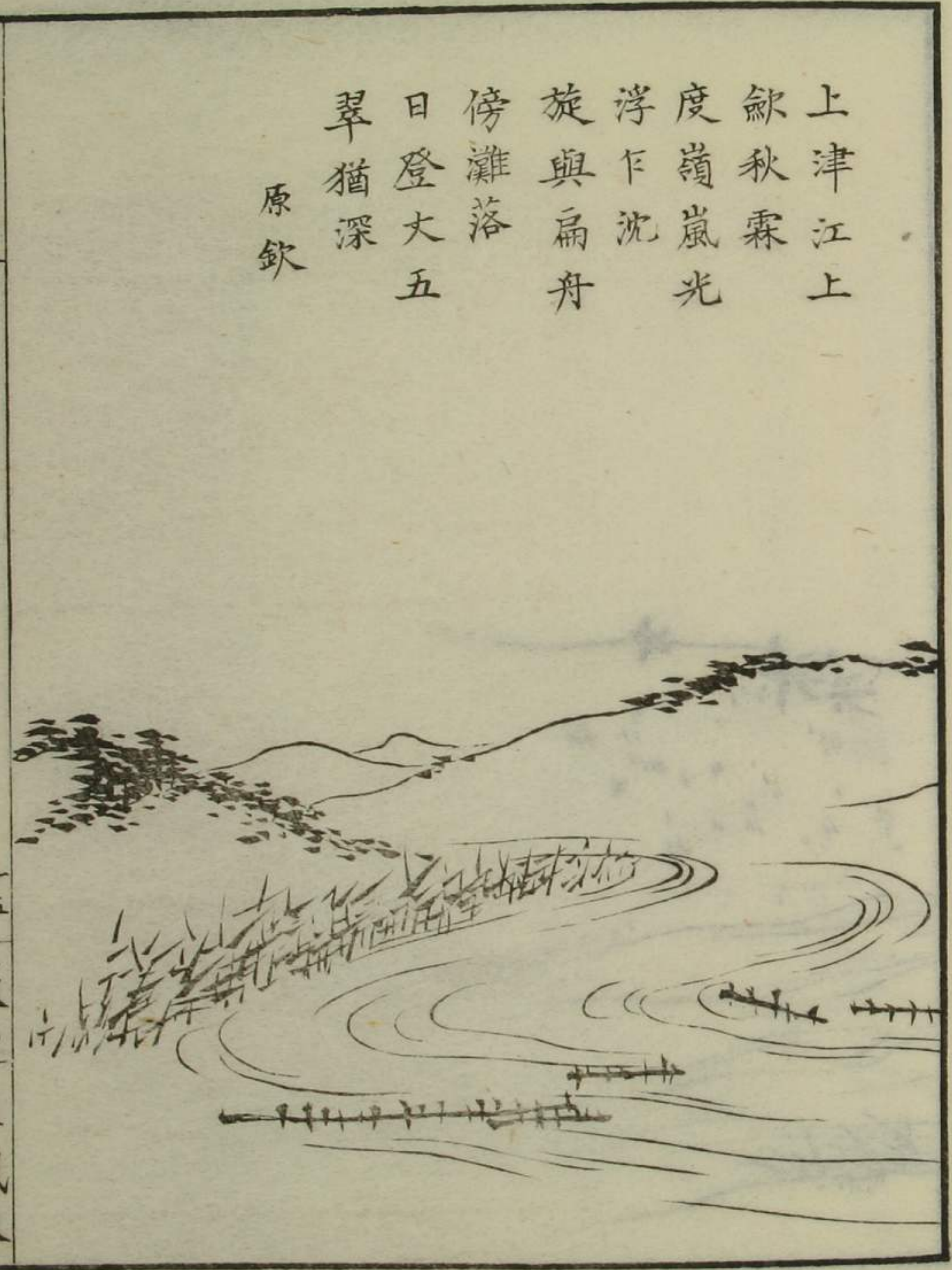
あ〜〜りね

春貞



上津江
晴嵐
古圖
春貞

上津江上
歛秋霖
度嶺嵐光
浮乍沈
旋與扁舟
傍灘落
日登大五
翠猶深
原欽



十五
上津江
晴嵐
古圖
春貞

上
平
之
上



三
岳
圖
目
圖

三



三岳圖目圖

十六
三
大
水
屋
版

新編 東大寺 縁起 卷之三

此牛に耕作の勞を禁し且牛飼ふハ飼料の地まじ國守と
りふ号を下賜せしぬ是より已降長門國中の牛ふハ竹木に
かきくはよふ門のふれ負する事を止む
彼國守某の住居せむを
り五反面ハ今もなわ作毛
作り取て是を牛飼料としひ傳ふかかゆあり
てり堀田の庄を牛舖の庄とせ改められしなり
まじ朝廷より白牛
山龍藏寺と勅額を賜り堂宇伽藍新し建營ありて結構
備えり其後かの牛の像を彫刻して南都東大寺の境内
浄土堂に安置せられしといひ傳へり

縁起一軸 勸修寺宮二品齋源親王の真蹟なり是ハ

東大寺に藏む今當寺なるハ公慶上人 東大寺
住職 の寫を所

ふして國守某の家より預りおけり左よりす

長門州阿武郡牛敷庄川島白牛山龍藏寺縁起

嗚呼春花落英秋月揚輝嚴寒速去溽暑忽至年々歳々實如旦暮
千百年後則往事荒昧難可尋矣依之見之盛業勝事必可命筆記
之耳長州阿武郡白牛山龍藏寺者 聖武大帝揮宸翰賜額之名
蹟也古老傳曰昔天平年中 聖武天皇大佛殿草創之時朝廷令
諸國出車牛長州多出好牛中有一頭白色殊好肥壯多力能牽巨
材其迅如風即編民國守之所牧也大殿土木功終帝勅雕其牛像
作堂安之蓋愍其功勞脫其罪報也今東大浄土堂之基此其地也
皇澤普潤賜國守以綸旨并芻料令其牛終不復役田疇畜齡短促

不久斃矣國守就其埋骸之地又創一堂以時祀焉事聞于九重天
上於是賜白牛山龍藏寺之榜額且以堀田庄充僧徒粥飯之費依
是改堀田名為牛敷矣至平城天皇御世恢廣先基營造梵宮安
聖觀音菩薩之像即僧行基之手刻而靈應顯著遐迩渴仰其三門
房舍經庫鐘樓等凡伽藍所可有悉成宮殿盤鬱樓觀飛鷲實一時
之盛觀也夫事極則反物盛必衰自時厥後世迂時變祇林之寶構
消磨于一千餘年之星霜盡矣予往年為大殿重興勸化諸國經歷
彼地尋國守後至川島之鄉逢一翁一婆居于草舍自稱其耳孫翁
出舍引予至一所云此即龍藏寺之遺蹤也指點處曰此是正殿
之基此是三門之址此是僧房之跡也予感往事不覺淚降幸哉應

安年中佛宗真悟禪師者出世構精廬于其跡改教為禪至今元祿
壬午十五年三百三十有餘歲衣末法嗣不滅家聲現住溪翁禪德
特謁予慙乞書其顛末予悲其記錄碑碣無可見而往事難尋意謂
今而不記又令後人悲於今也雖老且拙不之拒直寫古老口傳綴
緣起一章以酬其需云

寺寶 大樂若經六百卷

琳聖太子二十一代大内左京大夫盛見寄進と書々

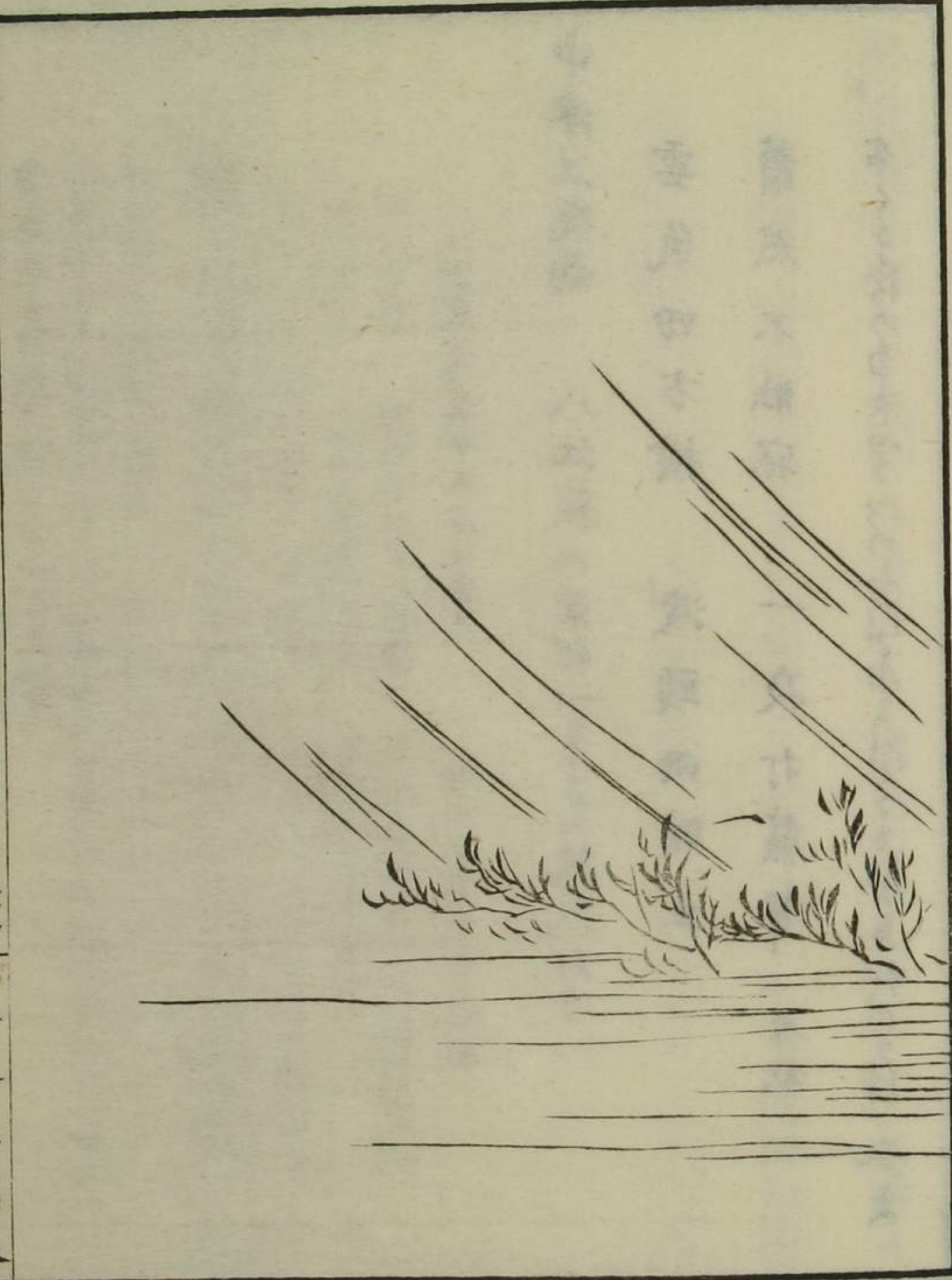
二王面

中興帰朝のとき蓮祥といへる仏子将末の二王面ありと寺傳
まいつる志うはあれと洞春寺傳記云昔香積寺を引て洞
春寺とせらるるとき其二王門の二王の面を竜藏寺住僧所望
せしと傳説ありとも小傳未詳くありとを傳をのり

御再建棟札荒増をのす

十九
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

二十一
次
五
尾
歲
反



三



三岳固口

三
岳
固
口
三
岳
固
口
三
岳
固
口

重奉造立竜藏寺觀音堂棟札并贊

這竜藏寺之一梵舍大同元年之權輿而所安置恭敬者觀世音一像也
寺前有一河源極南澗流入北溟官南漁鱗扁舟來去之要路也云々

防長二州牧君毛利甲族大膳大夫從四位兼行侍從大江朝臣綱廣

兼政 大江姓毛利宮内少輔就方 當郡吏司 粟屋五郎兵衛就正

造立奉行 小野六郎右衛門就兼 福井勘兵衛就重

番匠主頭 佐伯源左衛門就清 大工 熊野二郎左門 藤井正左門

于時寛文六丙午年正月吉日 侍木道安九拜謹書

中津江夜雨 八江秋八景の一として風致あり

雲氣四方横 渡頭雨暗生

蕭然不能寐 一夜打簾聲 原欽

布くるおのるもつるはのちりなほはるもほきやのうけ 春貞

與牧権現社 同所山邊にあり當社ハ青山氏の掌る所ニ

して椿八幡宮の幣帛を分ちて祭りたりと凡建治弘安
の間ハ勸請せしものと見えたりまゝ當社むうハ阿武
郡牛敷庄の産生神として祭礼ハ八月廿四日とす

古證文左より分

宮下松のら牧上村作ぬぬる

建武二年二月廿日

地江河津所

多ちてふをのみ

慧明山通心寺

上野の椎原臺よりあり黄檗派の禪宗よりて

東光寺より属して本尊より釈迦如来を安して開山を惠極和尚

といふ

惠極ハ本寺開基よりむと愚綴和尚開山建立する所より然れども惠極ハ一派の法宗ゆ及是にのり

相傳ふ呉服町

町人長井八兵衛といへるもの正徳三年當寺を開基せり

初め大津郡屋代村よりありて法光院と号せしを當所へ引け
るあり

天神堂

左より菅公の御影をかき井上八兵衛某のまゝ秘せしを當寺を建立せし時鎮守神として納りしと云ふ祭礼ハ九月廿三日

廿四日

とす

上野荒神社

上野椎原臺の南にあり勸請の年月詳ら

るに此邊の大社として氏子より毎歳九月の祭礼より

いと賑はる

圓福院

東光寺山門の南より隣より黄檗派の禪室として

東光寺の塔頭より本尊より釈迦如来として開山を高泉和

東光寺山門の南より隣より黄檗派の禪室として

尚といふ相傳ふ大津郡三隅村圓福寺といふ古跡を引て
建立せし所ちり開基は宗範といふ浮屠のちれりて元祿
年中の建立ちりといふ

観音堂

如意輪観音を安すむく大同年中松本市
に有けりを元祿十四年当所へ移すといふ

護國山東光寺

松本上市の東にあり山背の國宇治萬福寺派

の禅林にて開山を慧極道明和尚と号す

元柳沢氏の家臣小田忠
兵衛といふりの子なり

相傳ふ當寺は元祿四年

壽徳公の御創營して周防國厚

狭松谷村より東行寺といへる旧寺を御引せたりといふ所ちり

即ち宇治の黄檗山を模擬し七堂伽藍等全く備えり

山を号けて中を馬鞍峯といひ左を千秋といひ右を万

代の尾と付らるる

大権寶殿本尊釈迦如来を安置し脇士は阿難迦葉の二尊を

にり

天王殿

本堂の前回廊の中央にあり本尊は阿彌陀如来ありて
脇士は四天王とてハ韋駄天観音并を安置せり

禅堂

本堂
の左

にあり本尊は
文珠并を安す

齋堂

本堂の右にあり本尊
は緊那羅王を安す

鼓楼

禅堂の
前より有

浴室

高堂
の前

有 山門

開山堂

客殿の
後より有

地藏堂

御霊牌殿の左にあり本尊
は地藏并を安置す

經藏

御位牌殿の左にあり
数卷の經文書を納む

二下四
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

藥師堂

地藏堂と禪堂との間あり本尊藥師如來ハ脚丈四尺四寸の立像にて百濟より來りたるものと昔東行寺時代の本尊あり

御靈牌殿

本堂の後あり御代の様の御靈牌を安置し奉る

壽徳院殿

吉就公

泰祖院殿

吉元公

英雲院殿

重就公

靖恭院殿

齊房公

邦憲院殿

齊元公

其外御枝葉様御位牌あり

寺後山の禁と御墓所あり結構壯嚴あり

本堂 二重 屋根 一掲 額

大 推 寶 殿

本堂下の軒に掲る額
黄檗山 二代木 菴の筆

東 光 禪 寺

天王 殿前 一掲 額

天 王 殿

吉就公御真跡

本堂中の柱に掲る聯

黄檗山五代高泉之筆

纏拏華州寫梵書圖卷百萬人天皆受喜
不捨法華而備身自現任子孫系末勝依

同柱に掲る聯

海積山堆成法家風真廣大
日來月往衲俗法高永殷克

黃檗山三代即非の筆

山門二階に掲る額

山門の
前軒の
掲る額

解脫門

漢門
に掲る額

漢國山

高泉閣

高泉の華

鼓樓の額

鼓樓

七世沆山の筆

三

山門の柱に掲る聯

法於常轉祝國語或荒野苑

祖道多由在宗區名僧依慈

山門の後軒に掲る額

寺堂禪園

浴室

浴室に掲る額

此外扁額聯等數多
けれと之を略す

二十六
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

鉢多院

岡所樓門の北に隣る東光寺の塔中ちり

本尊聖観音ハ惠心僧都の作

國司主税念守仏を寄附せりとふ

當寺もまゝ惠

極を開山とす相傳ふもめ大津郡三見村にありて鉢多羅

寺といふを引て元祿九年當寺を建立す此鉢多羅寺とい

へるハむらゝ金峯權現の社坊に委しくハ金峰社の所よりす

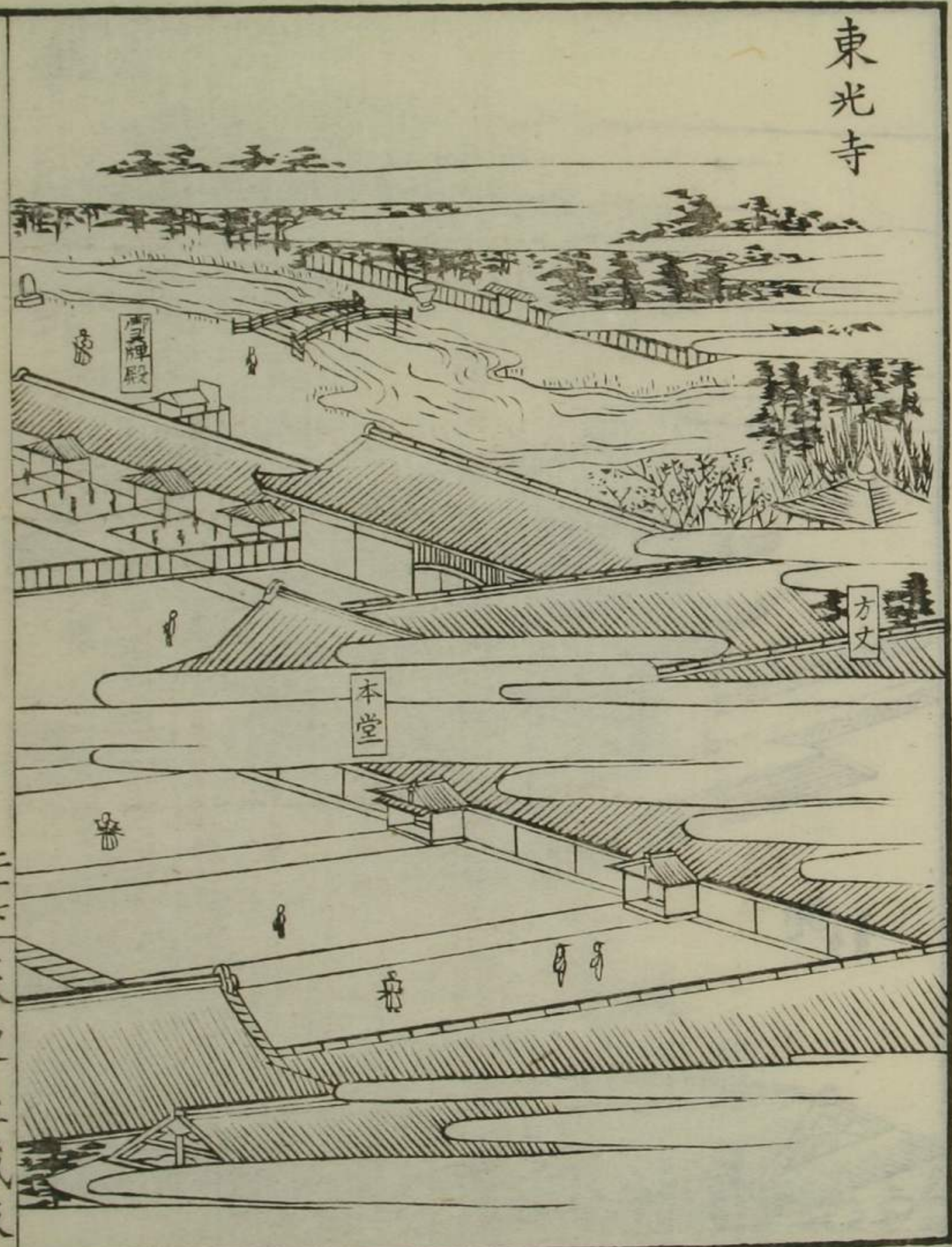
泰法院

同所より東によりて一丁程山の傍より東光寺の末院よりて開山ハ惠極和尚あり

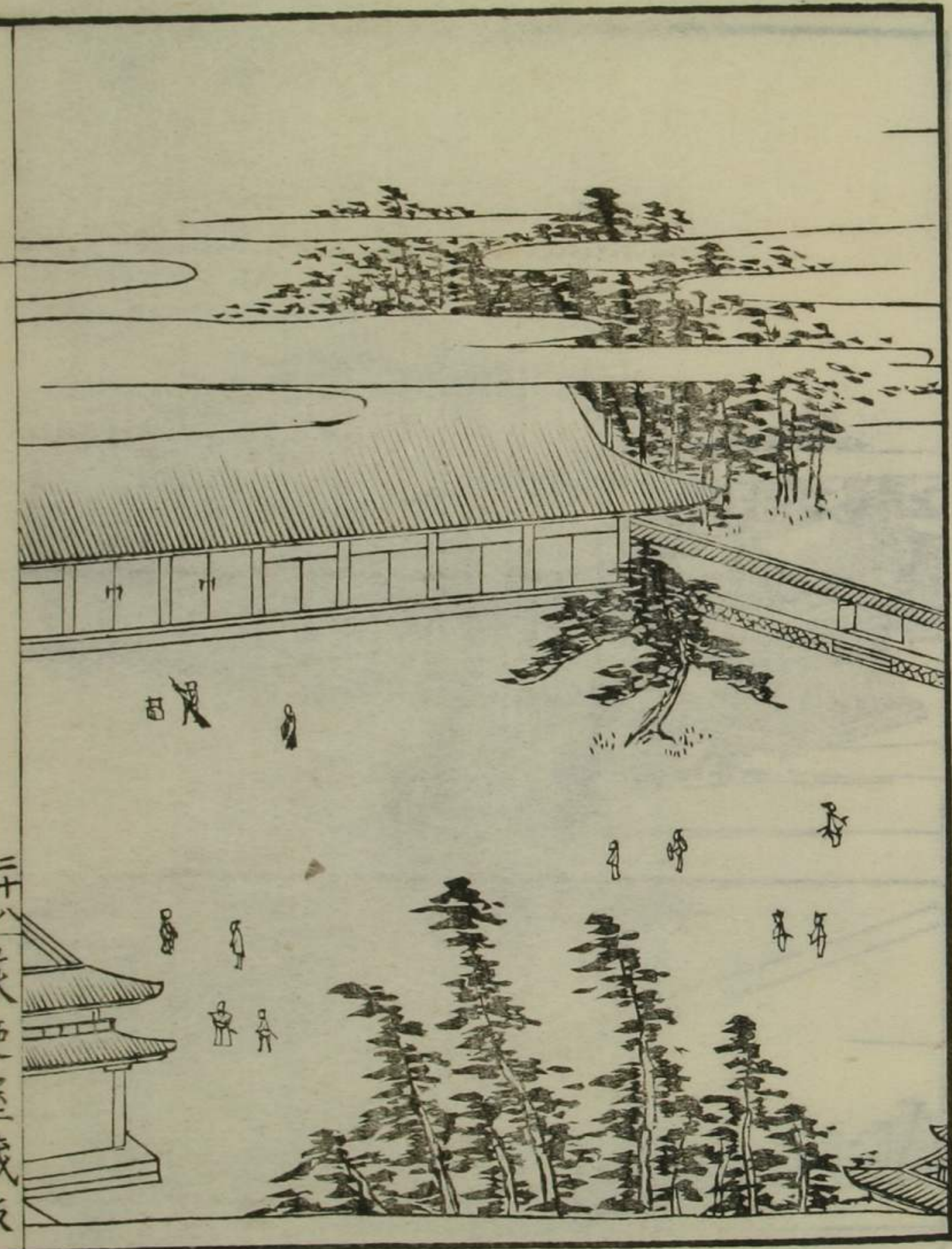
本尊釈迦如来ハ佛工増長が作りて寶曆年間の建立あり

秋葉堂

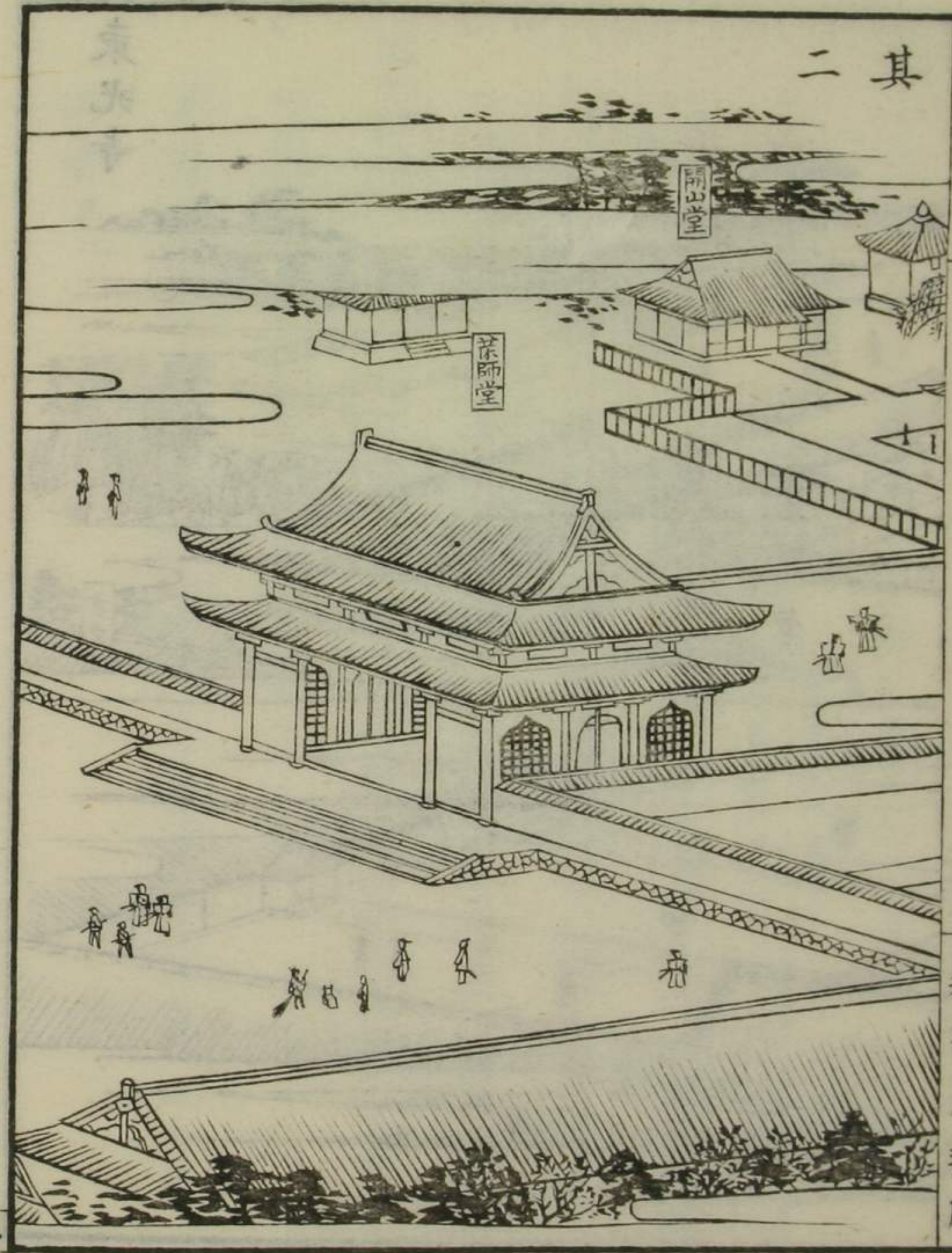
東光寺



二十七
三ノ口
大津郡
三見村
東光寺
秋葉堂

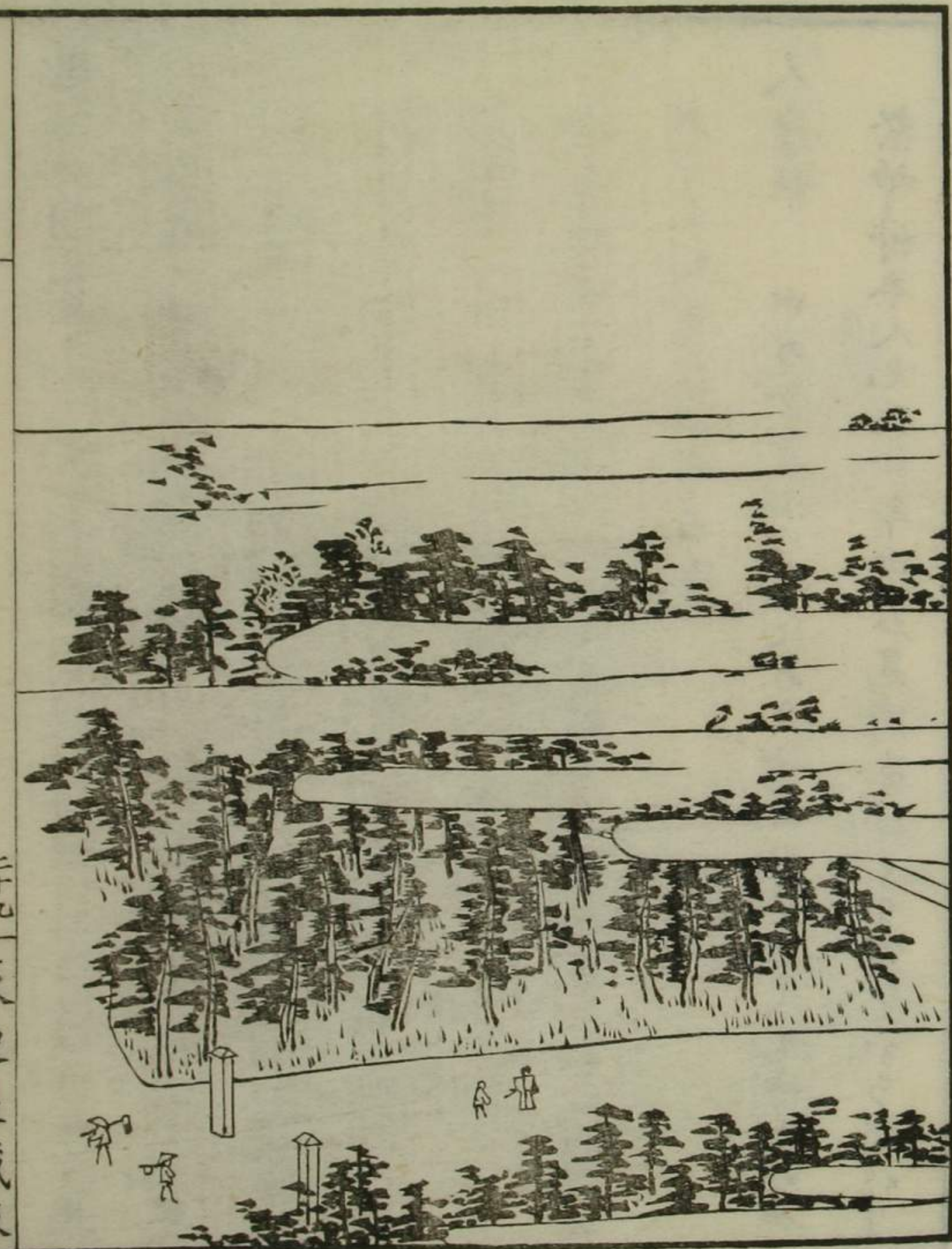


三十八
大
五
三
反



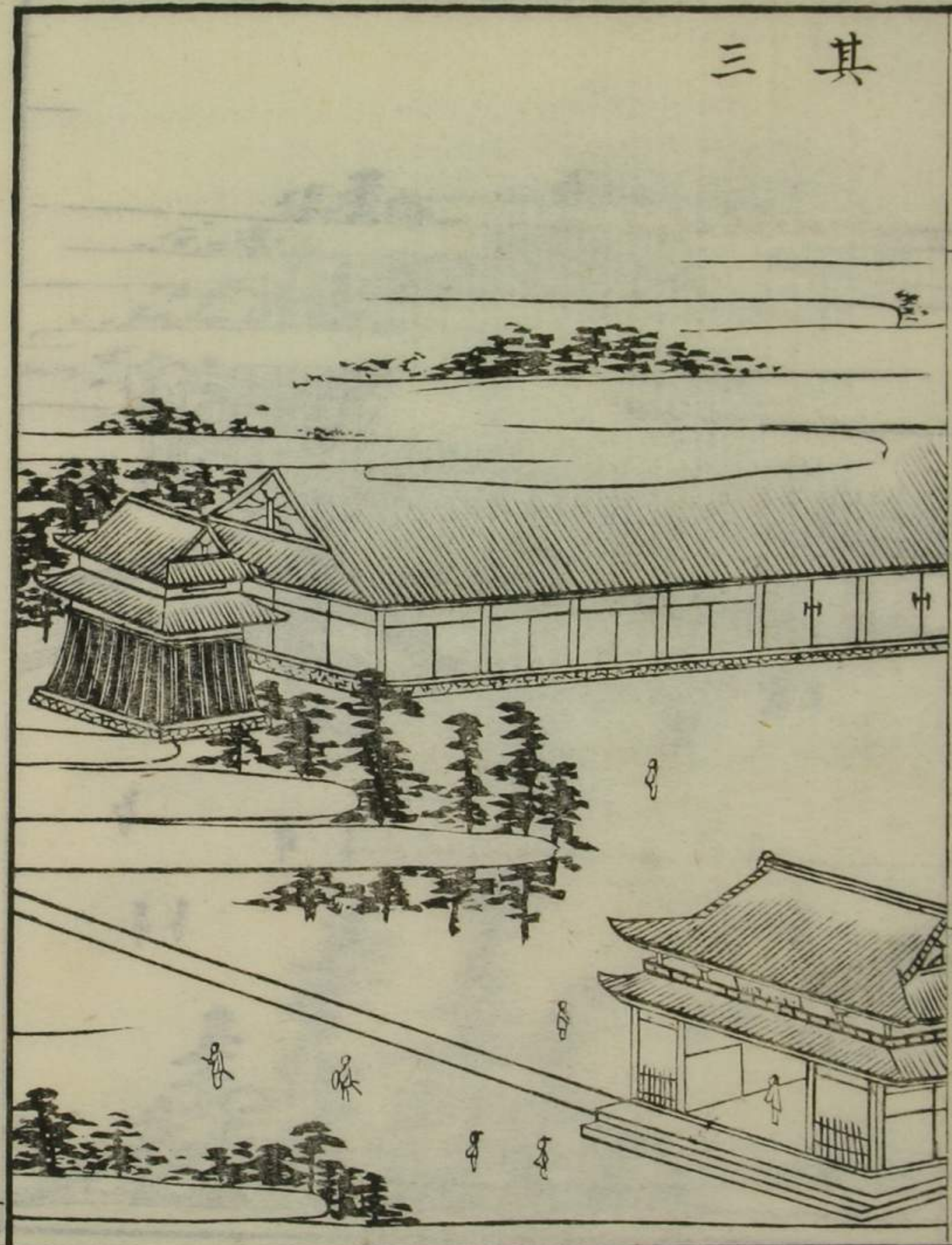
三

未
吳
屋
非
片



二十九
 大
 通
 畫
 藏
 版

三 其



三

永
 文
 屋
 齋
 片

例祭九月朔日二日あり

往還筋より五四丁より入る此處より扇落の瀧より行く道あり極めて難所なり又祭日ハ萩市中諸社のきたりけりて角力馬驅けるとありて賑々たり

唐人山

同所より良く高く聳へて松杉青く繁茂し

山をいふ往昔 天樹公朝鮮御征伐のときかの國の陶土師季

光

字不詳或人云恐らくハ上官の謬りなり今大津郡深川村湯

の墳墓あり一彼に住居せし所も年久しとつる兄弟の者御凱旋

の時御供へ来りりとを後御打入ありて鼓う嶽

今茶碗の上を以唐

人山

の禁地をむひて第舎をまつらひ猶土器を造らせむ

あまらありに其功最殊勝して世よ名を顯す計りに

なりぬこれよりて茶碗師御細工人として御令持をも賜

たり則季光を山邑作之丞

今深川茶碗

と号しシヤムクワンを

坂本高麗左衛門と改名させむ

中の倉茶碗屋

夫より以降御國産

の一色とありて尤佳品の名を得たり則坂本山邑ともに連綿

して今猶繁昌すさて鼓う嶽を唐人山といひ傳へるハ外蕃

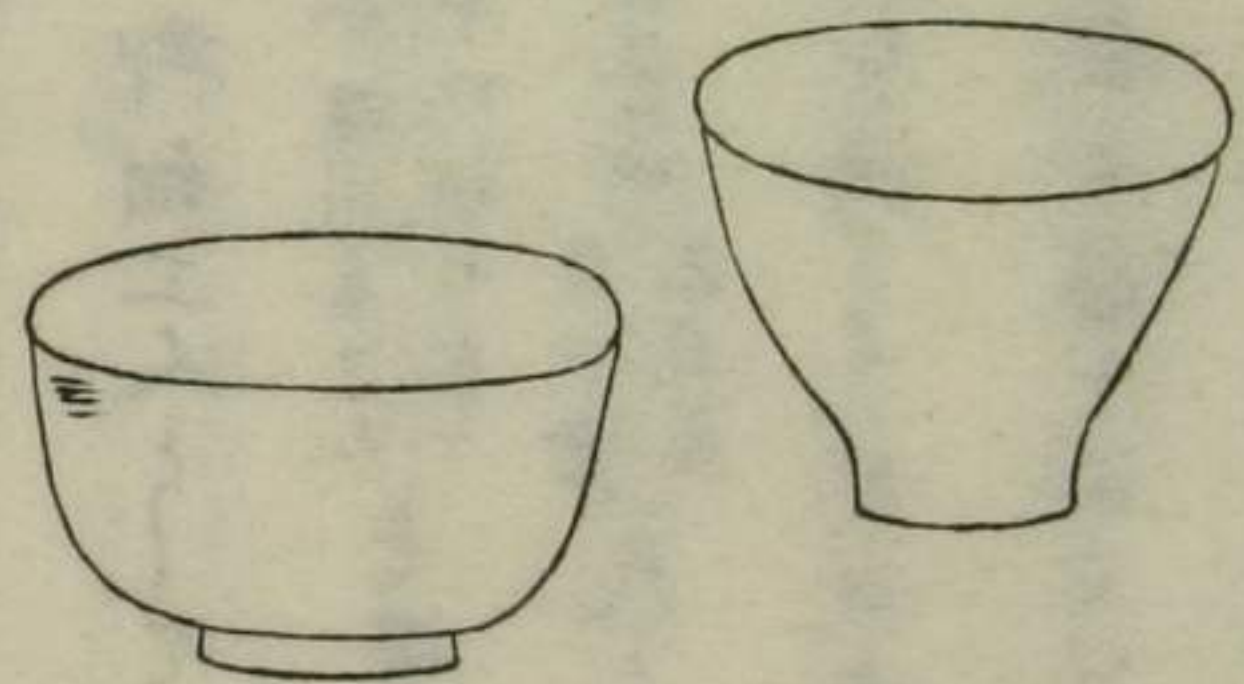
の人當所に住居せしよりの謬りなり猶わくの名およん

は高麗山或ハ朝鮮山といふは

因よみ深川村まハ阿武郡須佐村とよむ

高麗焼茶碗之圖

尾を萩焼ともいふ
後にも古松本も
いふ傳へり



かやうの焼ものを造り出せり尾を熊川と号す
より尾ハ高麗川焼ちりよや出所詳々ならず

大釜埵

同所よりまゝ北の方へ行て杉谷あり其往還の所

をいふ里老曰むり阿武郡叔藏當所はありて秋納のとき百

姓此所は打よりて藏納せしその時數多の人ちれハ煩々

とてかの大きゆる釜をたきて飯を調へしよまゝ或ハ

云昔ハ當所に鑄物司ありて此名残まうとそ今も道の上の

山は釜あといふあり

金峯権現社

手水川埵の前を練雀口といふ此道より東の

山に入りてあり此金峯権現といふハ昔大同年中八百比丘とい

ふもの大和國金峰山より此地に勸請せし所は始め遷し奉る
とき神体を舟よのせて小畑浦に着ぬ夫より七回り鳥越二
瀬川を経て黒川へ出今の下向道より遷座し奉る 今二瀬川の
下鳥越
の脇に權現原といふありこれ
遷座のとき所休所なりとぞ その地今古權現と云さてその傍は
百比丘の屋鋪鍛冶やきといふありきとて今も屋臺谷の
坊杉の坊ありといへる旧地ありて其名残りありきと云年曆詳
くありぬと金峯の民艸しく困窮して米穀不登産業頽敗
よ及びより終は金峯の百姓を三見村に移されし其時
此權現社二王宿坊ありしにも三見に遷せりしを其後年

を経て其民古地を去るひ公は訴へてわが金峯の地よか
へり来りしを權現社をも先立て當所へ再興し奉る則
二王の三見は残りおきたりしを 今三見市二王橋門とも一歴然
たりしを三見は鉢多羅寺と
りし社坊あり今の東光寺
塔頭鉢多院是なりとぞ 凡金峯の形勢四方大山の絶頂よて
わが風霜の烈しき所なり冬は更よもいまだ酷暑と
いへども哺時を過る時ハ冷氣凜々として肌寒く荒栲の
三重をうごかすの音ありかき水源ハ權現山の南割谷の東北
より流れ出まるといふ所の猿が藪より湧出して終は扇落
しの滝津瀬清らるるに流連落つま後金峰は野火起りて

神社田祿の災あり此とき里人早く神殿を驅付神体をと
 り出奉り御馬に乗りむし尊像を馬に鎖りて
 神殿の柱に繫きとめしれと出奉りて叶は甲斐なく
 焼失しとてそとて其尊像ハ古雅なるものにて最も殊勝
 按ふは熊毛郡岩城神社山門の二王の作古雅絶妙なり全
 く是と同作なりへし是飛驒の工なりとの彫刻なりんと覺ゆ
 神像ハ圭冠をかぶり袖口狭き袍を着し差貫の如き袴を
 着けたる御姿なり實ハ大古律義風俗見るは是れ
冠の形ハ
集古十種中よのせたる所の應神
天皇の御冠は一もたつとてなり
 まゝ金峰村の東南の隅岩に

峽に社を再建す夫より以来金峯の社地を古権現と云後
 まゝ里民夢想によりて櫻村の神社を再興は是則今の金
 峰権現社なり夫より岩々峽は小祠を建て是を中の社と
 せいふなり今手水川といへる名の残りとも社へ参詣する
 人の手洗所ありとりの名なりと里老のいひ傳ふる所
 なり

八江菽名所圖画三之卷終

